

米作り学習、修学旅行、運動会

コロナ禍でも工夫を凝らして

小中学校米作り学習

平成14年度から市内小中学校で実施されている米作り学習。日本人の主食である米について親しみを持ち、食料、農業に対する大切さを自ら体験することを通して、飯山を代表する基幹産業である米作りをすべての小中学生に学んでほしいと行っています。



米作り学習には地元生産者の皆さんの力が不可欠。この日も初めに児童たちへ稲刈りの手ほどき。



児童たちが自ら刈り取ってハゼかけしたコメは、今後給食として提供されます。

今年はコロナウイルス感染防止のための臨時休校もあり

ましたが、各校はできる範囲で学習を進めてきました

泉台小学校では10月5日、学校そばの田んぼで稲刈りを実施。当日は3年生、5年生の児童が参加し、JAなどの技術員の方、地元の農業委員さん、生産者の方の指導のもと、稲刈り作業を行いました。また刈った稲はそれぞれが束ねて、ハゼにかけられました。児童からは「今年は田植えができなかったが、ハゼかけまで体験できて楽しかった」など

例年と違う修学旅行を楽しみました。



飯綱町で「フォレストアドベンチャー」を体験した東小児童たち。

修学旅行は長野県内

どの声がありました。飯山市では今後も「飯山らしい教育」として米作り学習を続けていきます。

全国でコロナウイルス感染が拡大する中、小中学校では修学旅行の実施について検討を重ね、各学校では県外へ行く当初の予定を変更し、それぞれ長野県内での修学旅行を計画。またコロナウイルス感染防止のため、各学校とも宿泊は飯山市内へ戻り斑尾高原の宿泊施設で1泊するなどの

満蒙開拓の歴史が語りかけるものは…

中学校で平和学習講演会を開催

中学生の平和学習の一環として平成29年度から実施している、満蒙開拓の歴史を学ぶ講演会が9月14日、城南中学校と城北中学校で3年生を対象に行われました。

講師の満蒙開拓平和記念館(阿智村)事務局長の三沢亜紀さんからは、長野県から全国で最も多い3万人あまりの人が満州へ送り出されたこと、飯山市からも下水内郷開

拓団として619人が送り出されたが341人が死亡し、うち86人は逃避行の中で自決した歴史などが語られました。最後に三沢さんは「満蒙開拓の歴史が語りかけるものが何か、考えてほしい」と生徒に話していました。

参加した生徒からは、「授業で知った歴史以外の事実や、帰ってきた人の気持ちも知ることができた」など感想



城北中学校での講演会

が出されました。

ありがとう そしてこんにちは! 瑞穂保育園バス



瑞穂保育園の関沢・針田・小菅地区の園児が毎日利用する通園バスが新しくなりました。これまでのバスは雨の日も雪の日も園児を乗せ園へそして停留所へ送迎してくれました。長い間本当にお世話になり最後の日はみんなで「ありがとう」を言いました。そして10月より新車になりました。園児は「はやくのりたいなあ」「カメラがついているよ」と話していました。内装は黄色で動物の絵柄がある子ども専用のバスです。乗車がとてもスムーズになりました。大きい子どもが小さい子の横に乗り「てすりにつかまってね。」と優しく声をかけていました。

新しいバスはこれからも毎日、安全に子どもたちを乗せて走ります。



更新した通園バス

東小小学校は9月30日から1泊2日で修学旅行を実施。諏訪湖で水上バスに乗車したほか、奈良井宿、長野市戸隠などで博物館見学や各種体験を行いました。

運動会は時間を短縮して

春には休校の影響で開催できなかった運動会も、競技時間の短縮や、実施形式を変えるなどして、工夫しながら各校で実施されました。

戸狩小学校は9月26日、児童発案で「戸狩小学校スポーツ会」として実施。短距離走



戸狩小学校スポーツ会の様子

第48回 差別のない明るい飯山市を築く市民大会

10月24日(土) 午後1時30分~4時30分
会場: 飯山市文化交流館なちゅら 大ホール

■映画上映 「あん」 (2015年 監督: 河瀬直美 出演: 樹木希林 他)

■インタビュー上映 『あん』に込めたメッセージ (小説「あん」作者 ドリアン助川さん 飯山市民に向けたメッセージ上映)

■その他
・市内小中学校児童生徒による作文発表
・人権啓発ポスター、標語の展示

■ご注意ください
・ご来場の際はマスク着用をお願いします。
・新型コロナウイルス感染状況により、入場制限の実施や、開催中止とさせていただく場合がありますのでご了承ください。

人権学習 シリーズ

新たな人権問題

飯山市区長会協議会長 堀内隆夫

新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっているが、感染から発症までの潜伏期間が長く、また、感染して重篤な状態に陥り死に至る場合がある反面、無症状の場合もあったりと、非常に厄介な感染症である。未知のウイルスということ、世界中で基礎研究・臨床研究に取り組み、予防薬や治療薬の開発を進めていて、予防対策・治療方法の確立が期待されているが、暫くは日常の生活に最大限の注意を払うことで感染予防に努めていかなければならない。

この新しい感染症をめぐり、新たな人権問題が発生している。感染が確認された方、濃厚接触者とされた方はもとより、治療や看護に当たる医療従事者など、その家族の皆さんまでも含めて「コロナ差別」といわれる状況が起きてしまっている。当然ながら、感染された方や濃厚接触

が確認された方との不用意な直接・間接の接触については

可能な限り避けるべきであることは言うまでもないが、人権尊重に最大限の配慮を行うたうえで、暫くの間は社会生活・日常生活からの距離を取っていただくことは止むを得ないとして、私たちの社会のあちこちに不当な権利の侵害、陰湿ないじめとも言える接し方、SNSの匿名性の陰での誹謗中傷などが行われている現実があるという状況は何としても無くしていかなければならない。社会との関係において、万一病気がかかったとしても回復した後は、以前の平穏な日常を取り戻すことが難しいとなると、これからの私たちの日常生活は不安だらけになってしまう。

新型コロナウイルスとはこれから長い付き合いになるのだから、私たちは感染拡大防止の様々な取り組みを実践しながら、予防薬・治療薬の早期開発に期待すると同時に、感染当事者や関係者の人権尊重について改めて考える必要を感じている。